

特定非営利活動法人 ほっとはうす

平成 30 年度 事業報告

1. 事業の成果

【介護サービス事業】

① 小規模多機能型居宅介護事業

高齢化と核家族化が進む中、社会全体の課題となってきたのが「介護問題」である。平成 25 年に厚生労働省が行った国民生活基礎調査では、在宅介護を行っている世帯の半数以上が老老介護の状態にあるという結果も出ている。「笑の里」は開設から 8 年を経過し、小規模多機能型居宅介護事業所として地域に密着した事業所運営をめざしてきた。介護施設や通所、訪問系の介護サービス事業所では対応が困難となる要介護者の増加も伴い、利用者やその家族のニーズに寄り添いながら柔軟に対応できる介護支援が求められている。「笑の里」では、「通所」「訪問」「泊まり」の三つのサービスを組み合わせ、ご家族のサポートを行いながら、専門的なケアの提供により在宅ケアの支援に努めてきた。その結果、医療施設の地域連携室や居宅介護事業所からの問い合わせや、ご利用者家族からの紹介などにより、利用登録者も毎月ほぼ 20 名以上を確保でき順調な事業運営を行うことができた。

また、隔月に開催している運営推進会議では、自治会長様はじめ地域役員の方々からご意見や情報をいただくことができ、地域との連携を図るうえで有意義な機会となった。

今後とも、利用者が住み慣れた地域での生活を継続できるよう、地域住民の方々との交流や地域活動への参加を図りつつ、地域の介護サービスの一つの拠点として、地域の方々に親しみを持っていただけるような事業所づくりに努めていきたい。

② 職員の資質向上と体制づくり

利用登録者の増加を図り、利用者やその家族のニーズに応えた介護支援サービスを行うためには、職員の増員や人材育成は欠く事がない課題である。今年度前半は、不十分な職員体制の中ではあったが、職員が一丸となり多忙な日々を乗り切った。しかし、年度末にかけては常勤職員や経験のある職員の増員も図ることができ、事業所の規模に応じた職員体制もようやく整いつつある。現在も若年層の職員や経験の浅い職員が多い中ではあるが、毎月の職員会議やカンファレンス、また外部研修への派遣や内部研修などを通して、介護技術力の向上や理解を深め、利用者やご家族のサポートに全力で取り組んでいきたい。

【介護予防事業（ふれあいサロン）】

地域で高齢者が増加するに伴い、介護予防に関する活動や施策などの整備が急がれている中、地域の高齢者サロンなど集会や活動の場が求められているところである。

「ふれあいサロン」は毎月 2 回開催し、参加者が利用者と交流しながら、楽しく一日を過ごしていただくことができた。3B体操やパズルなどで、筋力の維持向上や脳トレに取り組み、季節ごとの行事にも参加してもらった。

今後は、地域の高齢者がいつでも立ち寄っていただけるような集いの場を提供し、人との交流、活動の機会づくりの、居場所となるよう取り組んでいきたい。

小規模多機能型居宅介護事業所 笑の里

平成 30 年度 事業報告

<運営>

- ① 利用登録状況 月平均 23 件（要介護 20 件・要支援 3 件）
 - ・新規登録 7 件…利用関係者紹介 3、居宅 CM2 病院 SW1 行政 1
 - ・終了 10 件…居宅移行 1 特養 1 老健入所 2 GH1 医療機関入院 4（うち死亡 2）
 - ・自立（社会復帰）1
 - ・要介護度 年間平均 2.65
- ② 利用者一人ひとりに必要適切な回数の通いサービスの提供、訪問サービスでのフォロー、泊まりサービスの調整を行い、利用者の心身状態およびご家族のサポートを行いました。
 - ・通い…平均約 11 件/日、ニーズに応じた計画実施。
 - ・訪問…平均約 8 件/日、通い送迎前後の身体介護や家事支援、在宅日の食事サービス支援が増加。服薬、掃除、買い物、通院や薬の受け取り・医療費支払い等、適切に対応。
 - ・泊まり…サービス計画に基づき、必要に応じたサービス回数を実施。前期平均 16 日稼働、後期平均 10 日稼働。
- ③ ケア方法や技術確認を行うとともに研修に参加しスキル向上に努めました。
- ④ 実務者研修時の配慮サポートをしました。
- ⑤ サービス体制基準を満たした適正なケアを実施するための体制づくりとして、常勤介護職員の充足を行いました。
また「食事」提供内容の見直し、調理員体制の見直しを行いました。

<取り組み>

- ① 利用者の思いや能力、役割に合わせて、ご本人やそのご家族の課題を多面的に捉え、個別のサービスメニュー（ケアプラン）を作成・提案しました。
- ② 利用者一人ひとりが、自分の存在や役割があることを実感しながら、やりがい、意欲をもって生活して戴けるよう支援します。
- ③ 登録者の心身の状態変化に伴う要介護度の見直しを適宜、モニタリングし、適切な要介護度の認定のもと、一人ひとりの能力、レベルに応じたサービスを提供します。
- ④ 事業所が計画する行事案内を配布し、ご家族の参加を戴きました。
- ⑤ 住み慣れた地域で暮らしていけるように、自宅での介護環境の改善や工夫、家族の介護力の活用、利用者近隣の方や交番等の公共機関にも見守り支援を依頼し、地域の方の互助、共助をインフォーマルサービスとして位置づけました。
- ⑥ 運営状況について定期的に自己評価を行い、かつ行政に状況報告を行い、適正な介護保険サービスの提供に努めました。
- ⑦ 医療機関からの退院相談に応じました。退院後の具体的なサービス計画を提案し、医療関係者にも小規模多機能型居宅介護サービスとその実際の支援内容について周知戴けるよう働きかけました。
- ⑧ 地域包括支援センターや居宅介護支援事業所からの緊急・困難対応ケースの相談に応じました。相談翌日からサービス支援が必要なケースもありましたが、小規模多機能型居宅サービスの迅速・臨機応変な対応性、職員の尽力により、ネットワークでの信頼も得てきたと実感

しています。

- ⑨ 多種多様なニーズに対応するためにも職員のスキルアップが課題です。認知症や重介護高齢者の人権やケアのあり方・視点、アセスメント能力、日々の健康管理、看取りが必要な方の家庭医学知識の習得や医療ケア関係者との連携等、マンパワー強化を必要としています。
- ⑩ 心身ともに健康な状態で、ゆとりとやりがいをもって業務を実践するため、マニュアルの見直しと実践、コミュニケーションを意識することに努めました。「人」としてかつ「専門職」としての自覚と自信、実践力をつけることが今後の課題です。
- ⑪ 人材確保のためシニア職場説明会やスタック開催の初任者・実務者研修の事業所紹介の場に出向しました。業務を多角的に捉えて見直し、スポット就労や有償ボランティアのマンパワーなど意欲のある人材確保の必要性も感じます。
- ⑫ 避難訓練は年1回のみの実施となりました。災害時の予防対策としての内容も見直したいと考えます。地域ぐるみの防災訓練の実施は至らず課題の一つです。事業所内の日々の設備・備品点検は、毎日実施し記録し、防災の意識を高めました。
- ⑬ 運営推進会議で得られた意見や情報共有をもとに業務改善に活かすことができました。事業所のサービスや運営についても徐々に理解や協力を戴けるようになってきたと思います。

<日課・月間予定>

① 行事

- ・昨年度の反省を活かし、意味や意義を考えて企画・実行。
- ・毎月の季節にあった行事（趣向は担当者が主となり企画）を実施。
- ・地域の方やボランティア活動の方の参加行事を計画。

② 研修

- ・近江八幡市、社会福祉協議会、小規模多機能型居宅介護部会等の主催する研修に参加しました。研修参加が厳しい職員体制でしたが、今後は一人ひとりがスキルアップに臨み、自己研鑽する機会づくりを提供したいと考えています。
- ・事業所内では、モニタリングを通じて認知症高齢者のケアや行動心理症状の理解、ケアの工夫を考察するための学びができました。

③ 会議

- ・年度後半に「職員会議」を「ケア会議」と改め、業務改善・ケアの統一化・リスクマネジメントを主旨とし、毎月1回実施。
- ・カンファレンスを毎月末に実施。モニタリング、ケア目標の設定を行い、ケアを充実していくための方策を考案、実施しました。

※年間行事報告は別紙のとおり

<ふれあいサロン>

- ① ボランティア協力のもと、自宅での閉じこもり予防、外出支援として、毎月2回程度、開業。
- ② 生活や身のまわりの困りごとなどの相談に応じ、要介護状態にならないようアドバイスしたり、福祉や介護保険制度の専門的な相談に応じました。

小規模多機能型居宅介護事業所「笑の里」年間報告

	行事・レクリエーション		研修・勉強会		会議等		防災		その他	
	内容	内容	内容	内容	内容	内容	内容	内容	内容	内容
4月	送迎中 通直 18.23	お花見 しゃくなげ観賞・喫茶 なんじゃもんじゃ観賞 喫茶 おやつ作り(ホットケーキ) 外食会	随時	ケア実技確認	カンファレンス(28日) 小多機部会(12日)	自主点検	笑だより発行			
5月	15 18 28		28	アセスメント方式	職員会議(15日)・カンファレンス(28日) 運営推進会議(16日)	自主点検	笑だより発行			
6月	3.8.15. 20.21				職員会議(8日)・カンファレンス(28日) 小多機部会(14日)	夜間想定防災訓練(29日) 自主点検	笑だより発行 ほっとはうす総会(15日)			
7月	7.16 10.23.27 30.31	七夕行事食・おやつ作り(水羊羹) 喫茶・外食	12	小多機部会研修会	職員会議(13日)・カンファレンス(31日) 運営推進会議(18日)	自主点検	笑だより発行			
8月	21.24 11	夏まつり ひまわり観賞(大中)	12	CM研修	職員会議(6日)・カンファレンス(31日) 小多機部会(27日)	自主点検	笑だより発行			
9月	10.13.14	敬老祝賀会	20.21	CM研修	職員会議(3日)・カンファレンス(28日) 運営推進会議(19日)	自主点検	笑だより発行			
10月	23.24.26	運動会	11.12.19	CM研修	職員会議(6日)・カンファレンス(26日) 小多機部会(25日)	自主点検	笑だより発行			
11月	4 16.17.19.27	馬淵学区文化祭 紅葉狩り・外食会	4 14	認知症研修 小規模部会交流会	職員会議(9日)・カンファレンス(28日) 運営推進会議(21日)	自主点検	笑だより発行・スタッフ事業所紹介 インフルエンザ 予防接種			
12月	21.25	年末お楽しみ会 馬淵幼稚園児交流	29	ケア勉強会 事業所自己評価	ケア会議(1日)・カンファレンス(28.29日) 小多機部会(13日)	自主点検	笑だより発行・スタッフ事業所紹介			
1月	10.11 18.19 29	新春のつどい お好み焼きパーティー 獅子舞			ケア会議(22日)・カンファレンス(28日) 運営推進会議：外部評価(16日)	自主点検	笑だより発行・自己説明会			
2月	1.2 12-16	節分豆まき バレンタインデー	7日	代表者・管理者研修	ケア会議(15日)・カンファレンス(27日) 小多機部会(14日)	自主点検	笑だより発行 サーベラス情報公表			
3月	1.2	ひな祭り			カンファレンス(22日) 運営推進会議(20日)	自主点検	笑だより発行			

2. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者数	受益対象者の範囲及び人数	支出額 (千円)
高齢者の介護事業及び介護支援事業	小規模多機能型居宅介護事業	通年 <通所> 9:00~15:45 <訪問> 随時 <宿泊> 18:00~9:00	近江八幡市 千僧供町 127-1		<登録者> 月平均 23人 <通所利用> 6~15人/日 326人/月 3,908人/年 <訪問利用> 4~7人/日 254人/月 3,052人/年 <宿泊利用> 4~5人/日 62人/月 747人/年	41,530
○ 護予防支援事業	ふれあいサロン事業	毎月2回 10:00~15:30 (年間22回)	近江八幡市 千僧供町 127-1 「笑の里」にて	ボランティア 1名	介護認定を受けていない高齢者 1~2名/回	

※詳細は別紙利用状況を参照

(2) その他の事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者数	支出額 (千円)
なし					

特定非営利活動に係る活動計算書
平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

特定非営利活動法人 ほっとはうす

科 目	金 額	(単位:円)
I 経常収益		
1. 介護保険収入		58,255,943
介護報酬収入	46,143,546	
利用者負担金収入	12,112,397	
2. 寄付金収入		10,000
寄付金	10,000	
3. 雑収入		494,100
雑収入	494,100	
4. 事業収入		24,200
サロン事業	24,200	
経常収益合計		58,784,243
II 経常費用		
1. 事業費		41,530,361
(1) 人件費		33,391,036
職員給料手当	29,201,918	
法定福利費	3,502,663	
福利厚生費	686,455	
(2) その他経費		8,139,325
旅費交通費	1,450	
研修費	26,794	
教養娯楽費	92,655	
諸謝金	75,550	
通信運搬費	314,176	
広報費	207,320	
消耗品費	380,019	
什器備品費	48,500	
保健衛生費	174,222	
食材費	2,415,448	
光熱水費	889,541	
修繕料	404,120	
印刷製本費	125,545	
燃料費	711,713	
車輛費	398,700	
保険料	682,130	
委託料	292,146	
手数料	291,846	
賃借料	415,800	
諸会費	35,000	
地代家賃	111,000	
雑費	45,650	
2. 管理費		2,685,704
(1) 人件費		1,804,000
役員報酬	1,804,000	
(2) その他経費		881,704
交際費	48,000	
会議費	45,720	
旅費交通費	52,840	
保険料	35,610	
租税公課	219,534	
支払報酬	480,000	
3. 減価償却費		2,500,248
減価償却費	2,500,248	
経常費用合計		46,716,313
当期経常増減額		12,067,930

平成30年度特定非営利活動に係る事業会計 貸借対照表

平成 31年 3月31日現在

特定非営利活動法人 ほっとはうす

科 目・摘 要	金 額	(単位:円)
I 資産の部		
1 流動資産		
現金	135,706	
普通預金	24,652,461	
定期預金	30,005,511	
未収金 (介護報酬)	7,560,665	
仮払金 (源泉年調還付充当金)	38,485	
流動資産合計		62,392,828
2 固定資産		
【有形固定資産】		
建物	19,253,996	
建物付属設備	3,167,101	
車輛運搬具	1,160,389	
器具および備品	168,489	
土地	1,500,000	
【その他の資産】		
投資有価証券	30,000,000	
固定資産合計		55,249,975
資産の部 合計		117,642,803
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金	4,437,683	
未払法人税等	3,488,000	
預り金	263,285	
流動負債合計		8,188,968
負債の部 合計		8,188,968
III 純資産の部		
前期繰越正味財産	100,835,862	
当期正味財産増減額	8,617,973	
純資産合計		109,453,835
純資産の部 合計		109,453,835
負債及び純資産の部合計		117,642,803

平成30年度 特定非営利活動に係る事業会計 財産目録

平成31年3月31日現在

特定非営利活動法人 ほっとはうす

科目・摘要	金額 (単位:円)	
I. 資産の部		
1 流動資産		
現金・預金		
現金手許有高	135,706	
普通預金 (滋賀銀行八幡南出張所)	24,652,461	
定期預金	30,005,511	
未収金 介護報酬 (2.3月分)	7,560,665	
仮払金 (源泉年調還付充当金)	38,485	
流動資産合計		62,392,828
2 固定資産		
建物 (笑の里)	19,253,996	
建物付属設備 (スプリンクラー、物置)	3,167,101	
車両運搬具	1,160,389	
器具および備品	168,489	
土地 (近江八幡市千僧供町127番地1)	1,500,000	
投資有価証券 (国債)	30,000,000	
固定資産合計		55,249,975
資産の部 合計		117,642,803
II. 負債の部		
1 流動負債		
未払金 (3月分給与等)	4,437,683	
未払法人税等	3,488,000	
預り金 (雇用保険料等)	263,285	
流動負債合計		8,188,968
負債の部 合計		8,188,968
正味財産合計		109,453,835

財務諸表の注記

1. 重要な会計方針

- ・財務諸表は、中小企業会計基準により作成。
- ・収益及び費用の計上基準 …… 発生主義
- ・固定資産の減価償却の方法
建物 …… 定額法
付属設備・車両運搬具・什器備品 …… 200%定率法
- ・有価証券の評価基準及び評価方法 …… 取得原価法

2. 固定資産(減価償却)の増減内訳

科目	取得価額	期首帳簿価額	取得	減少	当期償却額	期末帳簿価額	償却累計額
建物	25,005,186	20,404,234			1,150,238	19,253,996	5,751,190
付属設備	7,720,000	3,913,359			746,258	3,167,101	4,552,899
車両運搬具	5,059,867	81,841	1,547,180		468,632	1,160,385	3,899,478
器具・備品	460,988	261,609			93,120	168,489	292,499
ソフトウェア	210,000	42,000			42,000	0	210,000
計	38,456,041	24,703,043	1,547,180	0	2,500,248	23,749,971	14,706,066

3. 役員等との債権債務は一切ない。